

白石に住む人・訪れる人にとって「心安らげるまち」になるように…

花と緑のまちづくり

今月は、鷹巣花と緑の会が第25回「全国花のまちづくりコンクール」で、努力賞にあたる「若葉賞」を受賞され、風間市長へ報告に訪れたときの様子をレポートしました。

また、平成28年度に開催する「オープンガーデン」庭主の方を募集いたします。

☎企画情報課企画係 ☎22-1324 ☎22-1451

kikaku@city.shiroishi.miyagi.jp http://www.city.shiroishi.miyagi.jp/section/kikaku/flower

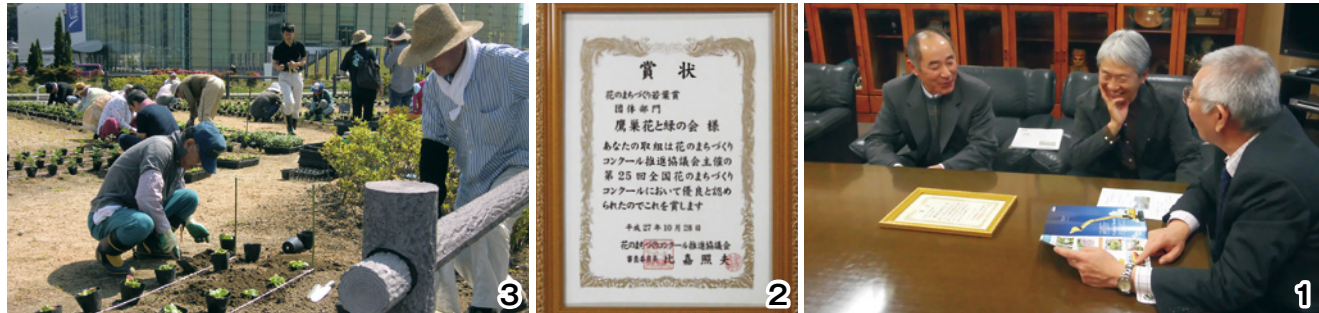
鷹巣花と緑の会

平成26年4月に発足した鷹巣花と緑の会は、鷹巣第5公園の美化・緑化に取り組み、同公園を地域住民のコミュニケーションの場として、地域の活性化につながる活動を行っています。

今回の受賞にあたり、鈴木伸一会長と佐藤昭自治会長は「全国から約1,900点もの応募があった中での受賞なので、とてもうれしいです。花がきれいに咲いてくれるたびにやりがいを感じます」と話してくれました。

また、植栽活動や除草作業は同会メンバーと自治会の人たちの協力を得て行っているということや、昨年の夏は特に雨が少なく、毎日、2時間かけて水やりをしていたことを報告していました。

鷹巣第5公園の美しい花壇は、同会のメンバー皆さんのたゆまぬ努力により維持され、地域の人たちだけでなく、市内外からホワイトキューブを訪れる多くの人たちの目を楽しませてくれています。



1_風間市長に受賞の報告をする佐藤自治会長（写真右2）と鈴木会長（写真右3） 2_「若葉賞」の賞状 3_昨年、マリーゴールドやサルビアなどの苗植えを行う鷹巣花と緑の会と自治会の会員たち

平成28年度「オープンガーデン」庭主の方を募集します！

昨年、初めての試みにもかかわらず多くのお客さまにお越しいただいたオープンガーデン。11人の庭主さんの協力のもと、花と緑を愛でながら愛好家同士が気軽に交流し、大盛況でした。今年も5～11月の間、オープンガーデンを開催します。そこで、お庭を公開することにご協力いただける「庭主」さんを募集します！

白石市花と緑のまちづくり奨励金

オープンガーデンにご協力いただける個人の方や団体などに、対象経費の一部（個人の方は上限1万円、団体などは対象経費の3分の2、上限20万円）を交付する「白石市花と緑のまちづくり奨励金」の制度もありますので、ぜひご利用ください。詳しくはお問い合わせください。

【団体など】 自主的に市内で活動を行う5人以上で構成されるグループと事業者

【対象経費】

- ✿ 植栽のための花苗、花の種子、球根の購入費（団体などは花木を含む）
- ✿ 管理に必要な肥料、培養土、薬剤の購入費
- ✿ 植栽に必要な鉢、プランター、ハンギングバスケットなどの容器の購入費
- ✿ 花壇設置に必要なレンガ、ブロック、柵などの購入費
- ✿ トレリス、ラティス、アーチなどの植栽の工夫に使用する道具の購入費



4・5_昨年のオープンガーデンの様子

東日本大震災から5年

白石市の復興状況

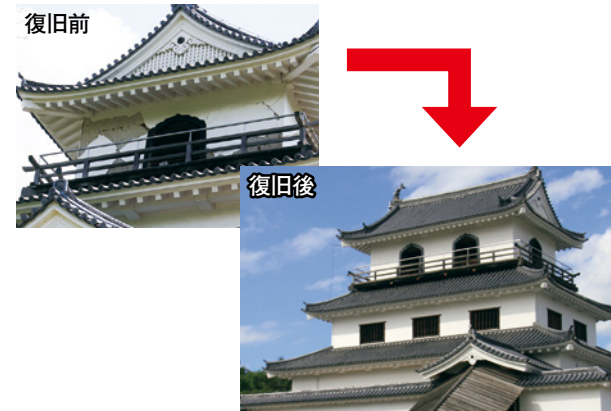
東日本大震災では、白石市も震度6弱の強烈な揺れに見舞われ、市民4名の尊い命が失われました。多くの施設や家屋が損壊し、ライフラインも断絶。かつてない被害となった震災から、間もなく5年が経過します。白石市では現在、平成29年度までの7年計画「白石市東日本大震災復興計画」のうち、「復旧期」「再生期」の期間を終え、本格的な発展期に移行しようとしています。

今月号では、あらためて白石市の復興状況についてお知らせします。

☎復興対策室 ☎22-1561

公共施設の復旧

建物や道路など公共施設の復旧はほぼ終了しています。下水道施設に一部震災直後には発見できなかった被災箇所があり（南町・東町・旭町地区など）、平成27年度末までの完成を目指し、復旧工事を進めています。



▲外壁の漆喰はがれ、亀裂が入るなど大きな被害を受けた白石城も震災前の姿を取り戻しました

●国の被災者生活再建支援金制度の活用（全壊・大規模半壊・半壊解体世帯）

平成27年12月現在、基礎支援金は282人申請済み（支給額2億3,775万円）で、そのうち新築・補修・賃貸入居等完了による加算支援金受給者は207人（支給額3億1,900万円）です。今後も受給者が1人でも増えるよう、各種相談の実施など、各被災世帯の状況把握を進めていきます。

放射能対策

●除染作業

これまで「子ども空間」の除染作業を優先的に行うとともに、民有地の除染作業も行ってきました。平成27年度には、民有地除染の事後モニタリングを行うなど、市民の安全・安心確保に努めています。



▲除染作業（遊具のふき取り）の様子

●焼却灰の収集・保管

地区単位ごとの放射能濃度を確認し基準に適合することから、平成27年11月からは白石・大平・白川地区でも新たに収集を開始。このことにより、市内全地区で収集・保管を開始しました。

今後も定期的に収集を行うとともに、仮置場の点検などを行っていきます。

●空間放射線量の測定と食品などの放射能濃度の測定

現在も継続して実施中。皆さんの生活の安心・安全を確保し、風評被害を払拭するよう努めています。

さらに、「塩化カリウム肥料」を4年連続で水稲作付け農家全戸に配布し、安全・安心な米作りを支援するなど、風評被害から全力で地域農業を守っています。

公共施設の災害復旧はほぼ完了し、被災家屋などの解体で市街地で空き地が増えた以外は、一見すると震災前の状態を取り戻した感があります。しかし、福島第一原子力発電所事故に伴う風評被害もあり、観光客入込数は震災前の水準をいまだ回復しておらず、被災された市民の皆さんの生活再建もまだ完了していません。

今後は、各種地方創生事業と復興事業を合わせて推進し、地域の活性化・人口減少の抑制とさらなる復興の加速化を同時進行で目指してまいりますので、市民の皆さんのご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

被災者の生活再建支援

市内では2,830世帯、約5世帯に1世帯が住家被害を受けました。また、平成27年9月現在、市民の仮住まい者は7世帯20人、県内各地からの避難者は19世帯56人、福島県からの避難者は72世帯215人、市外への避難者も13世帯25人です。

市では、皆さんの安全・安心な生活を守るため、来庁相談や郵便、電話での意向確認などで、住宅再建に対する各種助成金制度の紹介などを随時実施。被災者の定住支援・生活再建支援を継続しています。

●「白石市住宅災害復旧等補助金事業」などの継続実施

国などの支援制度がない「一部損壊」住宅を、修繕や補修工事などを行った場合、経費の一部助成を引き続き実施しています。平成27年12月までで831件、約6,352万円を使い、皆さんの生活復旧のお手伝いをしてきました。市では、今後も、修繕などができない市民を支援し、皆さんが震災前の生活を一日でも早く取り戻せるように応援していきます。

●震災復興割増商品券の発行

平成24～26年の3年間、商工会議所が実施する2割増商品券発行事業に対して割り増し相当額を助成しました（平成27年度は地方創生施策として実施）。

※白石市の詳しい復興状況はホームページにも掲載していますのでご覧ください。